学校番号	203

令和３年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	現代高等保健体育　　大修館						
副教材等	現代高等保健体育ノート　　大修館						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・健康・安全について理解しよう。
・健康的な生活行動について学ぶ。
・日常生活で直面するだろう健康課題を知り、その解決方法を考える。
・健康や安全についての社会的な取組や個人での対応について知る。
・身近な健康問題に興味をもってもらう。

２　学習の到達目標

・健康的な生活行動とはどのようなことか理解できるようになる。
・身近な健康問題に興味をもち、その解決方法について考えることができるようになる。
・健康や安全に対する社会的な取組みを知り、個人的な対応と関連づけて実践できるようになる。
・心と体を一体としてとらえ、健康・安全について総合的に理解する。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、個人生活及び社会生活における健康･安全課題について､意欲的に学習に取り組もうとする。	健康を保持増進するための課題や個人生活及び社会生活における健康･安全課題についての解決をめざして､知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し､それらを表している。		健康を保持増進するための課題や個人生活及び社会生活における健康・安全課題の解決に役立ち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。
評価方法	・授業観察	・定期テスト ・授業観察		・定期テスト ・授業観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生涯を通じる健康	思春期と健康 1.思春期は心と体の面が大きく変化する 2.性意識の変化･性行動の選択が必要である	○	○		○	a.思春期の心の変化について知るとともに、男女の生殖器官の発達について、それぞれ、積極的に調べる。 b.思春期における男女の性意識の差を理解し、二次性徴におけるからだの成長について、自らのからだの変化と関連づけて考える。 d.生殖器の成長によって、生殖機能が備わることについて、正しい知識をもつ。	･授業態度 ･授業ノート ･定期テスト
		結婚生活と健康 1.結婚は人生の大きな出来事の一つである 2.結婚は家族の健康に影響を及ぼす	○	○		○	a.健康の保持・増進のために、家庭が担う役割について積極的に調べる。 b.結婚の意義や家庭と健康のかかわりについて、自らの家族や将来に当てはめて考える。 d.結婚に関する制度と、家庭が健康に果たす役割について正しい知識をもつ。	
		妊娠・出産と健康 1. 新しい命が誕生する過程を知ろう 2. 妊娠・出産期の健康のために、様々な支援やサービスがある	○	○		○	a.受精から妊娠、出産までの過程のメカニズムについて、教科書などから積極的に調べる。 b.女性は、自らが経験するかもしれないこととして、男性も課題を見つけて考える。 d.受精の仕組み、妊娠の経過、出産の過程について男女とも正しい知識をもつ。	

		家族計画と人工妊娠中絶 1.家族計画を立てよう 2.人口妊娠中絶による影響を正しく理解する	○	○		○	a.家族計画を立てることの重要性を理解し、人工妊娠中絶による心身への影響などについても学習する。 b.家族計画の重要性を認識し、自らの将来に当てはめて考える。 d.人工妊娠中絶による影響や生殖補助医療技術の発達による新たな問題について、正しく理解する。	
		加齢と健康 1.加齢にともなう心身の変化がある 2.若いころの生活習慣が大切である 3.生きがいをもち、はりのある生活を	○	○		○	a.加齢に伴う心身の変化や壮年期以降の健康課題などについて、積極的に調べる。 b.加齢による心身の変化について、自らの将来に当てはめて考える。 d.加齢とは何か、壮年期以降にはどのような健康課題がでてくるのかについて正しい知識をもつ。	・授業態度 ・授業ノート ・定期テスト
		高齢者のための社会的取り組み 1.高齢者の健康課題と支援 2.健康で安全に暮らすためには様々な取り組みが必要である	○	○		○	a.高齢社会に向けた環境整備などについて、積極的に調べる。 b.家族や、身近にいる高齢者などに当てはめて考える。 d.高齢社会を支えるために、わが国でおこなわれている施策などについて、正しい知識をもつ。	
		保健制度・医療制度の活用 1.健康のための制度やサービスがある 2.わが国の医療制度や医療サービス	○	○		○	a.わが国の保健行政や医療制度などについて、その具体的な施策などを、積極的に調べる。 b.わが国の保健・医療に関する制度について、自らの健康の保持・増進に直接かかわるものとして捉え、考えることができる。 d.わが国の保健行政・医療制度などについての、正しい知識をもつ。	・授業態度 ・授業ノート ・定期テスト

2学期	生涯を通じる健康	医薬品と健康 1. 医薬品の種類と使い方を正しく知る 2. 医薬品の安全性のために様々な対策がおこなわれている	○	○		○	a.医薬品の効果と危険性の両面について理解し、日常生活における医薬品の危険性について積極的に考える。 b.医薬品を正しく使用するための情報を日常生活に当てはめて、適切に選択する。 d.医薬品の効果と副作用に関して、安全に使用するための正しい知識をもつ。	・授業態度 ・授業ノート ・定期テスト
		さまざまな保健活動や対策 1. 私たちの健康は様々な保健活動や対策によって支えられている 2. 民間機関や国際機関での保健活動	○	○		○	a. わが国や世界で行われている保健活動や対策について、積極的に調べる。 b. 自らの健康の保持・増進をはかるために、ヘルスプロモーションの考えに沿って積極的に調べ、さまざまな保健対策を利用する。 d. わが国で行われている保健活動について、正しい知識をもつ。国際的に行われている保健活動について、正しい知識をもつ	
		大気汚染と健康 1. 大気汚染は健康に影響を及ぼす 2. 大気汚染は地球規模の問題である	○	○		○	a. 大気汚染による健康被害を防ぐためには、どのような対策が必要であるかを積極的に調べる。 b. 大気汚染による健康被害を防止するための対策を、積極的に考える。 d. 大気汚染の定義と、健康に被害を及ぼす物質などに関する正しい知識をもつ。	・授業態度 ・授業ノート ・定期テスト
		水質汚濁と土壌汚染と健康 1. 水質汚濁・土壌汚染は健康に影響を及ぼす 2. 大気汚染・水質汚濁・土壌汚染はかかわりをもり、次世代にも影響を及ぼす	○	○		○	a. 水質と土壌の汚染による健康被害について、その原因と対策を積極的に調べる。 b. 水質汚濁と土壌汚染を防止するために、私たちが行うことができる身近な対策を考え、自らの行動に反映する。 d. 自然環境の水・土を通した循環について知り、水質や土壌が汚染されたときの健康被害などについて理解する。	

		環境衛生活動の仕組みと働き 1.環境汚染を防ぐ様々な対策がとられている 2.環境衛生活動のしくみや働きについて知る	○	○		○	a.環境衛生向上のための上下水道の整備方法やゴミ処理方法について、積極的に課題を見つけ学習する。 b.上下水道の設備やゴミの分別など、身近な問題として捉えて考える。 d.上下水道の仕組みやゴミ処理の4つの方法などについて、正しい知識をもつ。ゴミの減量化に向けた３R運動などの取り組みについて、正しい知識をもつ。	
		食品衛生活動のしくみと働き 1.様々な食品安全対策がおこなわれている 2.製造・加工段階で衛生管理方法が導入されている	○	○		○	a.食品によって起こる健康被害や、防止のための対策などについて積極的に調べる。 b.自らの食生活において、健康被害に遭わないために必要な行動を適切に選択する。 d.食品による健康被害と、その予防のために行われている対策について正しい知識をもつ。	
		食品と環境の保健と私たち 1.健康被害を防ぐために様々な対策がおこなわれている 2.循環型社会の推進のための取り組みがある	○	○		○	a.健康被害を防ぐために行われている対策などについて、積極的に調べる。 b.消費者としての私たちに求められている役割について、自らの行動に適切に反映する。 d.環境や食品の汚染による健康被害を防ぐために行われている対策について、正しい知識をもつ。	・授業態度 ・授業ノート ・定期テスト
		働くことと健康 1.働くことは健康に大きくかかわる 2.働き方の多様化によって健康問題が変化している	○	○		○	a.労働と健康のかかわりや健康生活を送るための職場・家庭・地域の役割について積極的に学習する。 b.職業選択の際の注意点について、自らの将来に当てはめて考える。 d.労働と健康生活のかかわりについて、正しい知識をもつ。	

3学期	現代社会と健康	労働災害と健康 1.労働災害を防止するための対策や管理がおこなわれている	○	○		○	a.職業病の原因やその予防のための対策などについて、積極的に課題を見つけ学習する。 b.職業病にならないための行動を、自らの将来に当てはめて適切に考える。 d.職業病の種類やその発生原因、予防のための対策について正しい知識をもつ。	・授業態度 ・授業ノート ・発表 ・定期テスト
		健康的な職業生活 1.職場における健康づくりが大切である 2.心と体の健康のための取り組みや余暇の活用の方法がある 3.労働基準法で余暇となる時間が保障されている	○	○		○	a.労働者の健康・安全をまもるために、どのような施策がとられているか積極的に調査し学習する。 b.ヘルスプロモーションの実現のために企業が果たす役割について、身近な問題として考える。 d.労働者の健康・安全を守る法律や制度・機関を知るとともに、労働者自身の心がけについても理解する。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。